

さくら第546号

令和 7年6月

さくら

発行所 さくらそろばん
 発行者 平瀬 重雄
 春江町境 17-7・Tel.51-1337
 hirase@mx2.fctv.ne.jp

エンジン
 あひねえ
 自分には
 エンジン
 かけるのは
 自分自身だ
 からね
 あつと

『学ぶたのしみ』

古来、考え事をする、思考を練る、よいアイデアが浮かぶのによい場所として10世紀に中国の欧陽脩(おうようしゅう)が「馬上(ばじょう)、枕上(ちんじょう)、厠上(しじょう)」のいわゆる「三上さんじょう」を挙げています。

現代風でいうなら馬上は車や電車に乗っている時で、枕上は枕の上だから寝る所の寝室といえます。厠はかわやと読み便所のことを指しますが今ではめったに見ない字です。

いずれも独りになる場所で周囲から離れた環境といえます。ギリシャの数学者アルキメデスが金の王冠の純度を調べるのに苦慮していた時、風呂に入り湯船から溢れたお湯を見て浮力を考えて王冠に金以外の物が混入されている事を発見したといえます。

これらは精神的にゆとりがありリラックスしている時に浮かぶことを意味し、机にしがみついて何かよいアイデアがないかと悩んでいる時よりも三上などの環境ほうがよいようです。

ところで、学習とは学んで習うことであり、習うとは学んだことを繰り返して学ぶことで、復習ではなく練習です。

習うとは教える人がいてその人に教わることで、知識や技術を身につけることを言います。

学ぶは、自分で考えて理解したり経験から得たりすることで、知識や能力を広げることが意味します。教える人がいなくても独学や実践を通して身につけられます。

予習は授業前にその日の内容を事前に学習することであり、復習は授業後に学んだ内容を再確認し定着させることです。

紀元前3世紀ごろに中国の孟子(もうし)は「居は氣を移し、養は体を移す、大なるかや居や」と「尽心上」という書物のなかで伝えています。

場所や環境は人の心を大きく変えるから、よい環境に置けば自然と良い心が育まれ、悪い環境に身を置けば自然と悪い心が育まれると説いています。人として成長するためには良い環境を選ぶことが大事ですね。

「養は体を移す」とは、食べ物や生活習慣はその人の肉体的な健康に大きな影響を与え、バランスの良い食事が大事です。半面、不健康な生活習慣は病気や体調不良を引き起こす可能性があるといえます。

環境といえば「孟母三遷(もうぼさんせん)の教え」が有名ですね。孟子の母は、我が子のすこやかな成長を願い居所を変えています。はじめは墓地の近くに住んでいたところ、孟子は葬式のまねばかりするので、街の中に引っ越せば今度はお金に関する商売のまねばかりして遊びます。

これも困るので今度は学校のそばに引っ越しました。すると礼儀作法をまねするようになり勉強にも力を入れ始めたので、その場所に住居を移しました。これが孟母三遷の教えです。

さて、頭を働かせるには姿勢が大事です。練習中の姿勢を見ると、左手を床につけ、傾げたかっこうで計算する人がけっこういます。イスに座っている人で姿勢のよい人は計算力も高いです。逆にいえば、姿勢によって成績がちがってくるのです。

音読とは声を出して文章を読むのですが意味を理解するには何度となく繰り返して声を出して読むと効果的です。反復練習こそ学習の神髄だということが忘れられているようです。

スポーツでは二度や三度の練習で技が身につきません。くり返して繰り返す反復練習が一番です。まちがえた問題は三度くり返すとできるようになります。一度だけの見直しではまた同じようなミスをします。そして大事なことは自分の手で書くことで、より深く記憶できます。ていねいに書き写すことをしてください。

五月雨や 名もなき川のおそろしき 季語 五月雨 与謝蕪村 日常の生活のなかにある普通の川が氾濫するなど、おそろしくなる